A 13 アメリカ家政学の系譜－学会誌分析－（第１報）

金城学院大短大　東珠実、静岡県立大井川高　大石美晴、名古屋文理短大
鈴木真由子、椙山女学園大家政　○守谷敏子、静岡大教育　村尾勇之

目的　本研究は、アメリカ家政学の特質と研究の推移を、アメリカ家政学会誌を手がかりに明らかにしようとするものである。レイクプラシッド会議に始まるともいえるアメリカ家政学の今日までの動向は、日本の家政学にとってきわめて重要な示唆を与えるものといえよう。本報では、前年度の大石の報告をベースにして、研究対象項目を明らかにするために、アメリカ家政学会誌の目次にみる構成項目の時系列的分析を行い、構成項目の分類とその内容を明らかにした。

方法　学会創立の1909年から1985年までに発刊されたアメリカ家政学会誌 Journal of Home Economics（77年間、708冊）と Home Economics Research Journal（14年間、58冊）を分析・考察の対象とした。はじめに 766冊のすべての目次・論文等について検討し、つぎにそれらを時系列的に系統化してその類型を求めた。

結果　アメリカ家政学会誌に掲載された論文等は、基本的には大・中・小の見出しやテーマをつけ分類されているが、学会誌創刊当初は分類項目はなく、種々の論文や記事等が羅列されていた。やがてこれらが分類整理され、今日的大分類によるところの①Articles、Research に属するもの（研究論文とそれに準ずると思われる総説的な内容）、②AHEA Today に属するもの（アメリカ家政学会の活動状況を中心とした報告的内容）、③Departments に属するもの（短編的な論評やニュース、新刊図書の紹介、編集者からのメッセージなど①②以外の雑多な内容）に分類される。項目数、項目名称も、80年に及ぶ歴史の中で多様に変化しており、その経緯の中にアメリカ家政学の動向が示されている。